



おかじま つよし  
岡島 剛 議員  
OKAJIMA Tsuyoshi

# Q. 今後の公共交通の展望は

## A. 利用ニーズに応じた交通の実現

令和5年9月定例会において、各交通事業者に対して、令和6年4月以降の運行に向けて、対応方針や既存のダイヤの維持をどのように要請していくのか、今後の公共交通についてと題して質問をした。

とよまタウンバスの令和6年4月1日のダイヤ改正について、①所要時間の延長、②南ルートへの減便、③北ルートの最終便短縮の3つの改正点が広報とよま3月号に掲載されている。これにより、ドライバーの休息・休憩の確保による安全安心な運行の確保や既存の運転手によって可能な限りの利便性が保たれている。

他の地域では、利便性が低下する交通機関が多数あるが、タウンバスの改正は、通勤通学の時間帯の利便性が維持されている。今回のダイヤ改正の結果に至るまでには、町とバス事業者との間で幾度にも渉る調整をされたと聞いており、昨年には、議員有志により各バス事業者に要望も



ダイヤ改正後も利便性が保たれる

させていただいた。

公共交通を取り巻く社会情勢は、人手不足など依然として厳しい中、超高齢化社会の到来により、公共交通を主体とした移動支援は喫緊の課題となっている。

**Q** 町として、今回のダイヤ改正の評価はどのように考えているのか。

**A** 産業建設部長  
ダイヤ改正の影響を最小限にとどめるべく、バス事業者との協議を進める中で、バス事業者においても新たに運転手を採用していただくなど、

最大限の努力をしていただ

た。その結果、1便の減少はあったものの、通勤・通学の時間帯である朝と夜の運行については、これまでとほぼ同じ時間帯での運行を維持することができた。この点について、評価できるものと考えている。

要望活動を行った議員の皆さまにお礼を申し上げる。

**Q** 令和6年度の事業に、デマンド型交通の実証実験の予算がある。デマンド型交通を含め、今後の公共交通の展望をどのように考えているのか。

**A** 産業建設部長  
デマンド型交通の実証実験については、豊山町地域公共交通計画に定めた「多様な交通サービスとの連携や新たな交通サービスの導入」の実現に向けて行うものである。

詳細は事業者との調整で決定するが、タクシーを活用して一定期間、利用者のニーズに合わせた運行を行いたい。また、対象の方を限定し、一

定の負担をお願いしたいと考えている。

今後の展望については、定時定路線バスに限らず一人ひとりの利用ニーズに応じた交通手段により、誰もが、安全安心で便利に、行きたいところに行ける地域公共交通の実現を目指したいと考えている。今回の実証実験では「デマンド型交通」の本町への導入の可能性や諸課題についてしっかりと確認していく。

